

## 新入職員の皆さんへ

理事長 石井 暎福

新入職員の皆さん、医療崩壊という言葉聞いたことがありますか。

小児科や産婦人科の医師が勤務のきつい病院から次々とやめて、お産や小児救急ができなくなっている事を表している言葉です。新しく医師になった人たちもこうした「きついけれども報われない診療科」を選択しなくなっています。

実は問題は、産科、小児科にとどまらず第一線の地域医療を展開する全ての病院の診療科において似たような事態が進行している事にあるのです。私たちの病院も例外ではなくかつてないほど厳しい現実にさらされています。

その原因はいくつかあります。まず医療技術・機器の進歩によって以前は不治であった病気が治るようになったのと引き換えに一人の医師にかかる負担は飛躍的に増えたのです。又、高齢化社会の到来によって80歳代以上の方の手術も普通に行われるようになりました。それは、多くの合併症を持つ患者が増えることにつながり、手術はとても神経を使います。

そのうえ、近年では患者が納得するまで

説明を受けるべきといういわゆるインフォームド・コンセントが当然のように求められます。又、医療訴訟もとても増えています。

以上、昨年4月21日版海燕「新入職員の皆さんへ」の記事再掲

こうした状況は、一年間でもっと進みました。多くの病院が救急医療から撤退し、残った病院の負担がますます増しているのが現状です。私たちの病院も、地域住民の期待に応えるために、救急体制の強化・改革に取り組んでいます。初期治療の後の入院・転院病床の不足、入院治療後の在宅療養や介護施設での療養など地域連携・機能連携の問題として包括的に取り組まない限り、十分なる救急医療は展開できないのです。今年、グループの諸施設に配属された新入職員の皆さんにはこのような状況の中で自分を位置づけて使命感を持って活躍して頂きたいと考えます。地域の人々が本当に困った時に頼りになる施設こそが真の意味で地域に必要な施設なのです。

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。

その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鴉らの群を尻目に、

海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）

# 初期臨床研修を終えて

狭山病院 内科研修医 眞田 和賢

狭山に来て3度目の春を迎えることになりました。

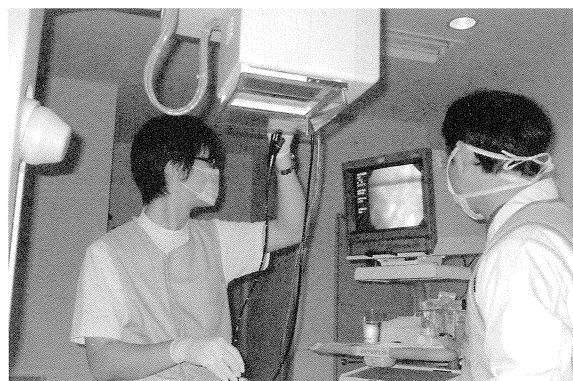
今年も稲荷山公園から病院へと続く道は桜満開で、毎日の通勤時や、時々病院の窓から垣間見えるその光景は、私を癒してくれます。

とある一人の患者さんと狭山病院から見える桜について、病室でちょっと話してみたことがあります。「先生。病院から一番綺麗に桜が見える場所ってどこでしょうね」僕も病院で過ごしている時間は長くても、そういったことはあまり気にしていなかったことなので少々戸惑いました。「そうですね。屋上とかから見えるのが一番いいんでしょうか。でもそう簡単に行けるわけではないし。いや。難しい質問ですね。」患者さんはハハハと笑っていました。「こういう質問こそはしっかり答えてくれなくちゃ。」そして横の窓の方を向きました。「ここ一番良いでしょ。そう思うんだよね。ここしかないよね。こうやって毎日見ていると、つくづくそう思うよ。先生もちゃんと覚えておくと良いよ。ここだね。」「ああ。なるほど。全く恐れ入りました。」こんなとりとめのないやり取りが、日常の患者さんとの関わりの中では不思議と印象に残ってきます。

初期臨床研修としてこの2年間、色々な患者さんと色々な場面で毎日、多くの出会いを経験させて頂いたと思います。全てを覚えているわけではありませんが、ふとした時に記憶を辿ると「ああ。あの人だ。」と思い返したりします。また、逆に実際の診療においても「あの病気と

言うとお〇〇さん」「この病気なら△〇さんや○△さん」というように、最近でも「疾患名」というより「～さんの病気」という覚え方になっている事が多い気がします。そんな意味でも、この2年間での研修は本当に患者さんから教わることが多かったと自分では思います。今後これから何十年と医療という仕事に携わっていくであろう中で、2年間というのは短い期間でもあり、ほんのはじまりにしか過ぎないとも思いますが、狭山病院でどんな経験を積んできたかと問われれば、自分が自信をもって言えることは、とにかく多くの人に出会えたことであるなあと思います。言い古された言葉ではありますが、それぞれの疾患なり病態なり、解決方法は患者さん一人一人が教科書であるというのを実感させて頂きました。

今後、後期臨床研修として引続き狭山病院で勉強させて頂けることになりました。狭山病院は、確かに毎日忙しく、自分にとっていっぱいいっぱいの日々ではあり、苦しいと思うことも少なからずありましたが、今でこそ慣れたこの充実した生活を楽しんで生きたい。そんな気持ちでこれからも日々励んでいきたいと思っています。



〈内視鏡室での研修風景〉

## ★トピックス①

### 川崎幸病院移転事業が正式スタート

本部事務局長 辻田 征男

4月1日、満開の桜が街を覆う中で、川崎幸病院移転新築の土地所有者である川崎市住宅供給公社との間に、共同事業に関する基本協定書が締結されました。

この事で、移転場所である幸区大宮町の土地が事実上確保された事になります。設計に関しては、現在基本設計完了の最終コーナーに差し掛かっています。四月中に基本設計を終え、五月からは

実施設計を行います。実施設計は、医療現場の動線などに配慮し、より細かに設計を煮詰めていく作業になります。実施設計が終わると市役所に建築確認申請を行い、建築業者の選定に入ります。

現在のところ、工事着工は2009年7月の予定となっており、工期は、今後の設計内容によりますが27ヶ月が見込まれます。

## ★トピックス②

### さやま総合クリニックに最新鋭CT

本部放射線科コーディネーター 間山 金太郎

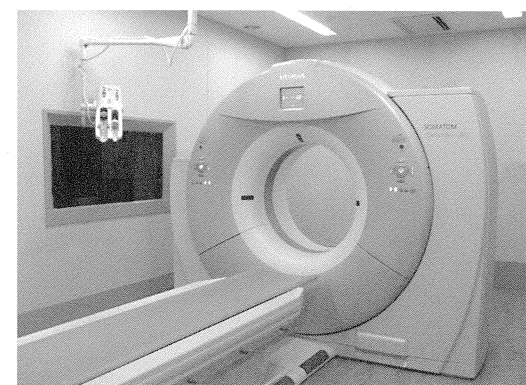
今年3月に厚生労働省の薬事審査を通ったばかりの128列マルチスライスCT装置(以下、128MDCT)が狭山総合クリニックに導入されました。

これは、日本ではもちろんアジア・オセアニア地区においても1号機です。この螺旋状スキャン装置は現時点で世界最多の128列を有するとともに撮影範囲は200cmに及ぶため、一度に頭から爪先までの全身を1つのボリュームとして短時間で撮影することが可能です。また、ガントリ回転速度は世界最速の0.30秒で、現在使用されている16スライス装置に比して各段に時間分解能が向上することから、画質の向上はもちろん、撮像(息止め)時間も現在の20秒程度から5秒以内へと大幅に短縮することができます。

さらに、同機にはAdaptive 4D Spiralという新しい撮影方式が搭載されており、患者寝台が前後に高速で複数回往復し、1つの臓器を一度に多時相で撮影する

ことができることから、4次元データによる画像評価が可能です。そして、Adaptive Dose Shield機能により被ばく低減機能もすぐれています。

さやま総合クリニックでは、この128MDCTの稼働により、今後、全身の高精細ボリューム診断撮影や心臓CT検査が可能になるとともに、全脳や肝臓など臓器全体の灌流画像(Perfusion)、心拍動、嚥下運動、呼吸運動などの機能観察にも大きな威力を発揮するものと期待しています。



〈狭山総合クリニックに導入された最新128MDCT〉

## 《趣味探訪》

# 『オーディオマニアは電線病』

立川新緑クリニック 事務長 岡本 正太

過去にもこの趣味探訪のコーナーで音楽に関することを書いていた方が多くいたと思います。楽器を演奏する人、歌う人、クラシック鑑賞をする人などなど……。音楽の楽しみ方はいろいろです。私も演奏や、音楽鑑賞はもちろん好きですが、最近の楽しみ方は、オーディオを“いじる”ことです。要するにオタクなわけですが、別にメイドさんに萌えているわけではありません。

スピーカーやアンプ等の機器本体は、ピンからキリまであって、それこそ数万円から1,000万円を超えるようなものもあります。中には、電柱から専用の電気を引いて自宅にオーディオルームを作ったりする方もいます。しかし、私の楽しみは、そんなにお金をかけずに、小遣いの許す範囲で何とかして“よい音”にしようと創意工夫をすることです。色々書くと海燕の紙面を全て頂いても書ききれませんので、特にハマっているケーブル(スピーカーや電源とつなぐ電線のこと)について少しお話ししたいと思います。

こちら“素材が銀製で1本100万円”なんていうものもありますが、一般的には銅製のものがよく使われています。しかしここからがマニアな世界です。単なる銅ではなく純度が問題です。99.99%位は序の口で12N(99.999999999% = Nineが12個という意味)なんていうものもあります。さらにこの高純度な銅を絶対0度(-273℃)に近い温度で急速に冷やすと結晶構造が均一化され電導効率が飛躍的に向上すると言われています。専用の機械で処理されることもあります。多くは液体窒素(液体窒素温度=-196℃)を用いて一気に冷やします。私なんぞは皮膚科外来にある液体窒素のボトルを見かけると、「うちのケーブルにも垂らしてほしいっ。あ〜イボと一緒に冷凍凝固しちゃって!!」なんて密かに思っています。病院の中には他にもマニアごころをくすぐるものがあります。例えばコンセントです。ME機器についているコンセントプラグの多くは“ホスピタルグレード”と呼ばれる透明なごっついプラグがついています。本来は医療用に①断線が視覚的に確認できるように透明で、②容易に抜け落ちないように、かみ合わせが強固なものになっています。これがマニアに

としては、接触抵抗値が通常のコンセントが50mΩなのに対して、医療用は10mΩで電導効率がよい!!となって垂涎の的になります。ちなみにアキバあたりで1個数千円位で買うことができます。

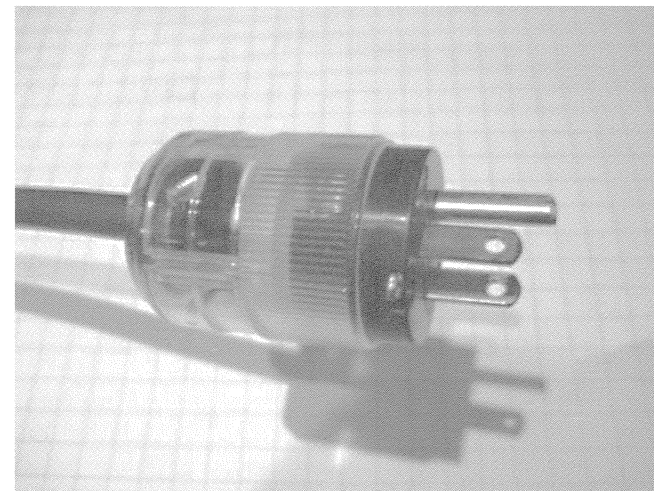


〈電線病の私……写真中央スーツ姿。左は島田院長〉

写真のコンセントの他にも、我が家には明らかにオーディオに必要と思われる数より、はるかに多くの電線の類が転がっています。オーディオマニアの世界ではこういう人を“電線病”と呼びますが間違いなく私も発病しています。

さて、そこで気になる音への効果ですが、もちろん劇的に向上します!! しているはずですが!.. してるんじゃないかな?.. 多分してると思うんだけど.. ??。ここまで読まれた科学者たる医療人の皆さんは、「アホか」とお思いでしょう。いいんです。オーディオの世界にはエビデンスもアウトカムもありません。プラセボ効果万歳!! なのです。

同種の趣向をお持ちの方、是非ご連絡をお待ちしております。



〈我が家の大事なコンセント〉

## ★トピックス③

〜川崎幸病院〜

# 『MUZAランチ&ナイトタイムコンサート』

出演：東京交響楽団メンバーによるフルート&弦楽四重奏、  
ジャズトランペットのRick Overton によるユニット

### ■MUZA川崎「MUZAランチ&ナイトタイムコンサート」

石心会がホールスポンサー(特別賛助会員)でもあるミューザ川崎シンフォニーホール(MUZA川崎)。このMUZA川崎で毎月一回行われ、地域の皆様やビジネスマン、OLに好評を博しているのが「MUZAランチ&ナイトタイムコンサート」。

このコンサートの7月7日(月)と9月10日(水)の両公演を川崎幸病院が冠スポンサーとして応援します。

招待券20枚をご用意しました。

石心会グループの職員はだれでも申し込みます。

ご希望の方は川崎幸病院 管理室までお申し込み願います。

\*\*\*\*\*

川崎幸病院 PRESENTS

「MUZAランチ・ナイトタイムコンサート」 プログラム

公演時間：ランチタイム 開場11:30 開演12:10(終演予定12:50)  
ナイトタイム 開場18:30 開演19:00(終演予定20:00)

■2008年7月7日(月)

出演：東京交響楽団メンバーによるフルート&弦楽四重奏団

曲目：ボロディン/弦楽四重奏曲第二番、モーツァルト/フルート四重奏曲第一番 他

■2008年9月10日(水)

出演：Rick Overton Unit

曲目：サイドウォーク、枯葉(ロンドバージョン) 他



Rick Overton (Tr)

# ミュージック・サロン



## ■さやま総合クリニック

### ヘルシーコンサート♪

毎月開催の「さやま総合クリニック ヘルシーコンサート」、今回は3月22日(土)に開催された「クリスマスコンサート」をご紹介します。

今回はNHK交響楽団メンバーによるアンサンブルで、ベートーベン、ブラームス、そしてアルバン・ベルクと聞きごたえのある曲目が並びます。いつもはなごやかな雰囲気の中に始まるこのヘルシーコンサートですが、この日はクラシックコンサート会場のように静けさが漂います。ピアノの第一音が繰り出されると、やがて三つの楽器が奏でる個性豊かな音たちが豊かに絡み合い、美しい音楽を紡ぎだします。最後の演奏が終わって、一呼吸あった後、会場は大きな拍手に包まれました。

## ■出演：「ムジカ・リベラ・トウキョウ」

山根孝司(クラリネット)、宮坂拓志(チェロ)、大宅 裕(ピアノ)

## ■曲 目：ヨハネス・ブラームス：クラリネット三重奏曲 作品114

アルバン・ベルク：クラリネットとピアノのための4つの小品 作品5

ルートヴィヒ・ファン・ベートーベン：クラリネットとチェロとピアノの三重奏曲 作品38

## ※演奏家プロフィール

山根孝司：国立音楽大学、ベルギーアントワープ王立音楽院、リエージュ音楽院を卒業。ベルギーに17年滞在し、ブリュッセルのイクトゥス・アンサンブル、パリのアンサンブル・アルテルナンスのメンバーとして、ヨーロッパ各地で演奏し2004年帰国。現在、NHK交響楽団、なにわ・オーケストラ・ウィンズのクラリネット奏者、秋吉台現代音楽セミナーの講師。

宮坂拓志：5歳よりチェロを始める。桐朋学園高校音楽家を経て同大学を卒業。2000、01年小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト出演。2004、05年宮崎国際音楽祭出演。2004年から2年間N響アカデミー在籍。2007年2月よりNHK交響楽団楽員。

大宅 裕：桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業、卒業演奏会に出演。ピアノの最高学位ならびに室内楽のプリミエ・プリをグラントディスティンク賞にて卒業。ソリストとして、アルス・ムジカ音楽祭、フランダース国際フェスティバル等を含め、ヨーロッパ各地でリサイタルを行っている。現在、アンサンブル・シャンダクション、エボニートリオ、アンサンブル・アビスの各正メンバー。



## ☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストユンディ・リが練習用に愛用したものです。

## 《読書のすすめ》

ディック・フランシス 著  
早川書房 2007年12月発売  
税込：1,995円

## 「祝 宴」(原題 Dead Heat)

川崎幸病院 副院長・心臓病センター長 塚本 善昭

ディック・フランシスは障害競走の元騎手で、50年代にはリーディングジョッキーにもなり、エリザベス王太后の専属騎手を務めたことでも有名ですが、騎手引退後、62年に本格的長編小説を発表して以来、約1年に1作のペースで競馬を題材にした作品を発表し続けてきました。この「祝宴」は、たしか41作目だと思います。2000年に妻であり執筆の協力者であったメアリー・フランシスを亡くしてからは筆をおいてしまい、残念に思っていました。6年間のブランクをものともせずに見事に復活したのが、2006年発表の「再起」(原題; Under Orders)です。この作品もたいへん評判が良いのですが、ここにはシリーズ4度目の登場となるヒーロー、元障害騎手の調査員シッド・ハレーが主人公として登場します。できれば過去に登場する3作(「大穴」「利腕」「敵手」と一緒に読んでいただくと楽しみも何倍にも膨らむということで、今回はあえてその後の2007年に発表された最新作「祝宴」を選びました。

史上最年少でミシュランのひとつ星を獲得し、ニューマーケット競馬場の近くで予約がなかなか取れない人気レストラン〈ヘイ・ネット〉を構えている若きオーナーシェフ; マックス・モアトンが主人公です。彼が料理を担当した伝統の2000ギニーレースの前夜祭で食中毒が発生し、店の常連だった競馬界の有力者が次々と激しい腹痛と嘔吐に襲われ、マックス自身も食中毒にかかり、〈ヘイ・ネット〉の厨房は食料基準局によって閉鎖されて

しまいます。しかもレース当日、マックスは競馬場の貴賓席で催されるスポンサー企業のパーティをまかされており、弱った体でなんとか料理をこなしたものの、会場で爆弾テロが発生し、多くの死傷者が! 前日の食中毒と爆弾事件になにか繋がりがあると直感したマックスは、汚名返上のため調査を開始する。……  
いつもながらの丁寧な職業描写でシェフの世界をのぞかせつつ、自分の名誉をかけて事件を解決に導いていきます。そしてスカッとした気持ちの良いhappy endへ。よろしかったら是非、手にとってみてください。

さて、出会い・旅立ちの季節です。最後に Steve Jobs 氏のStanford大学の卒業式でのスピーチをご紹介します。お時間があるときに次のアドレスにアクセスしてみてください。

[http://jimaku.in/w/D1R-jKKp3NA/nbZXF\\_WFQDq](http://jimaku.in/w/D1R-jKKp3NA/nbZXF_WFQDq)



## ★トピックス④

### 【川崎幸病院】

- 3月17日 院長主催医師送別会
- 3月18日 川崎市消防署意見交換会
- 3月26日 川崎市病院協会協会長表彰(受賞者:根本久美子/福村祐子/福田明男)
- 出張講演
  - ・ 2月16日 パークシティ新川崎自治会健康講座  
『消化器がん治療最前線'08』(講師:関川副院長) 参加者50名
  - ・ 2月27日 鶴見西ローターリークラブにて講演  
『国の医療政策と川崎幸病院』(演者:院長/石井暎禧)
- 定例救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
  - ・ 2月21日 『胸痛について』(講師:循環器科副部長/村井治) 参加者19名
  - ・ 2月22日 『胸痛について』(講師:心臓病センター顧問/大村延博) 参加者10名
- 院内勉強会
  - ・ 1月9日 CT・MRI勉強会(放射線科主催)
- NST委員会主催勉強会
  - ・ 1月30日 『安全な経口摂取を始める前に』
  - ・ 2月27日 『栄養アセスメントタンパクにおける血漿タンパクRTP』
  - ・ 3月26日 『誤嚥性肺炎について』『経腸栄養剤投与中の下痢便秘の原因と解決』

### 【川崎幸病院中原分院】

- 1月30日 第1回イブニングセミナー(川崎市総合自治会館にて地域医療関係者を対象に開催)  
『大腸腫瘍の内視鏡的診断～拡大内視鏡を用いたpit pattern診断』  
(講師:川崎幸病院消化器病センター内視鏡統括医師/大前芳男) 参加者27名
- 2月1日 中原分院広報誌「きづき」創刊

### 【狭山病院】

- 1月16日 石心会狭山地区事業所合同新年会 参加者 約250名
- 1月17日 感染防止活動報告会(11題発表) 参加者30名
- 1月29日 安全対策成功事例報告会(11題発表) 参加者78名
- 2月21日 サービス向上質改善取組発表会(4題発表) 参加者50名
- 3月1日 復職支援セミナー 参加者5名
- 3月11日 防火対象物点検(東棟、管理棟)
- 3月17～27日 本館ナースステーション改修工事
- 3月22日 研修医症例発表会 参加者30名 研修期間中に印象に残った症例を取り上げ、  
初期研修医11名、後期研修医1名が症例を発表しました。
- 3月23～30日 西棟1階改修工事
- 3月27日 防災訓練 参加者44名 夜間帯の火災を想定した総合訓練
- 院内勉強会
  - ・ 1月22日 『院内感染防止対策(多剤耐性緑膿菌・Clostridium difficile)』 参加者89名
  - ・ 3月10日 『医の倫理講演会』 参加者62名
  - ・ 3月27,28日 『第2回保険診療講習会』 参加者163名
- 地域医療連携・公開カンファレンス

- ・ 1月18日 『今日のパーキンソン病治療』  
(講師:防衛医科大学校第3・神経内科准教授/鎌倉恵子) 参加者80名
- ・ 1月25日 『(1)感染防止のモチベーションアップに向けての当院の取り組み』  
(講師:看護部管理科長/佐藤 逸)  
『(2)外来からの感染防止～自分の身は自分で守り、そして感染を広げないために～』  
(講師:副院長〈院内感染担当〉/青島正大) 参加者152名
- ・ 2月22日 『認知症の理解とケア』 参加者176名  
(講師:和光北地域包括支援センター 認知症高齢者看護認定看護師/石川容子)
- ・ 2月23日 『糖尿病と長寿～食事療法にどう取り組むか～成長と寿命を司るシステム』  
(講師:内科副部長/三好洋二)  
『糖尿病の食事療法について』(講師:辻学園栄養専門学校 教授/加福文子)
- ・ 2月29日 『バセドウ病の診断と治療』(講師:透析センター長/小野田教高) 参加者73名
- ・ 3月14日 『心臓血管外科でのPADに対するバイパス術』(講師:心臓血管外科部長/木山 宏)  
参加者80名

### 【川崎幸クリニック】

- 2月6日 糖尿病公開講座 11名参加
- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
  - ・ 1月16日 参加2名
  - ・ 2月13日 参加3名
  - ・ 3月26日 参加5名
- 心理相談室公開講座 臨床心理士
  - ・ 1月30日 『うつの方との付き合い方』 参加者12名
  - ・ 2月27日 『子供の育てにくさ』 参加者1名

### 【さやま総合クリニック】

- 健康教室 参加者各回15名
  - ・ 2月23日 『腰痛体操』(講師:理学療法士/上原広次)
  - ・ 3月6日 『春の行楽弁当と食事療法』『ご自分の薬の働き、ご存知ですか?』  
(講師:管理栄養士/蒲池裕子,薬剤師/小倉弥生)

### 【さいわい鹿島田クリニック】

- 2月12日 透析室増床工事終了・運用開始(透析ベッド数74床から102床へ)
- 4月よりマンモグラフィ検診施設画像認定(総合判定結果「A」)取得  
※このA認定は非常にハードルが高く、取得が非常に困難と聞いております。

### 【アルファメディック・クリニック】

- 1月25,26日 日本総合健診医学会 36回大会 参加者2名
- 3月1,2日 アルファメディック・川崎健診合同職員旅行 in 箱根 参加者総勢32名
- 3月12日 防災訓練 参加者34名

### 【川崎健診クリニック】

- 1月15日～3月14日 全国労働衛生団体連合会主催講習会参加
  - ・ コンピュータシステム研究会 1名
  - ・ 医師講習会 1名
  - ・ 労働衛生講習会 1名
  - ・ その他(5講義) 5名
- 3月1,2日 アルファメディック・川崎健診合同職員旅行 in 箱根 参加者総勢32名

### 【昭島腎クリニック】

- 3月23日 創立10周年記念式典シンポジウム『充実した透析医療をめざして』参加者147名

● 院内勉強会

- ・ 1月22日 ・『透析患者の副甲状腺機能亢進症の改善・・・新薬レグパラ錠について』
- ・ 1月31日 ・『ノロウイルス感染症対策の要点』 参加者33名
- ・ 2月28日 ・『ヘパクロンの効能効果、相互作用』 参加者25名

【新緑会脳神経外科】

● 院内勉強会

- ・ 3月6日 ・『CAVIについて』(臨床検査技師/青木聡子)
- ・『MRの安全について』(診療放射線技師/大川浩平)
- ・『当院の安全管理について』(院長/佐藤健吾)
- ・『リスクマネジメントについて～インシデントレポートの誤解を解く』(作業療法士/小泉雄一)  
参加者：35名

【立川新緑クリニック】

- 1月19日 立川地区新年会 参加者116名
- 2月1日 名称変更『医療法人社団新緑会立川新緑クリニック』
- 2月12日 新薬局、新検査室、第3外来診察室使用許可(立川多摩保健所)
- 3月30日 16列MDCT設置

【立川介護老人保健施設わかば】

- 2月19日 東京都介護老人保健施設大会にて『ザ・外食サービス大作戦』発表 発表者2名
- 2月2日 ボランティア交流会 参加者(ボランティア)7名/(職員)8名 大会参加者8名
- 勉強会
  - ・ 1月16日 『平成18年度事故報告結果について』『移乗動作を考える』 参加者28名
  - ・ 2月20日 『石心会主任研修報告』 参加者22名
  - ・ 3月19日 『認知症について』 参加者32名 ・ 3月(4回)『アンビュバック実技講習』
- 花見週間
  - ・ 3月24,29日 通所リハビリテーション ・ 3月31日,4月1日 療養棟

【北部東わかば地域包括支援センター】

● 地域活動

- ・ 1月12日 悪質商法撃退キャラバン開催(於:若葉会館) 参加者65名
- ・ 1月29日 口腔ケア『歯つらつ教室』立川市高齢福祉課主催の協力支援(於:幸学習会館)  
参加者7名
- 地域福祉コーディネーターとの協働による活動
  - ・ 1月8日 若葉町団地住民対象 いきいき健康体操 参加者25名
  - ・ 2月4日 睦会第2団地自治会 いきいき健康体操 参加者16名
  - ・ 3月8日 地域の助け合いの輪を考える 参加者15名
  - ・ 3月15日 認知症を考える(栄町グッドネーバーをすすめる会主催に協力) 参加者70名

【オリーブ】

- 1月21日から1週間 教員免許取得実習1名受入(昨年7月から都合7名受入)
- 2月19日 中学1年生体験学習受入
- 2月14日 あおば幼稚園園児35名との交流
- 2月28日 そば打ち実演による昼食におそば提供

【本 部】

- 1月11日 石心会川崎地区合同新年会 参加者340名